

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス事業所 輝なっせ		
○保護者評価実施期間	2025年 1月 13日		～ 2025年 1月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	39名	(回答者数) 39名
○従業者評価実施期間	2025年 1月 13日		～ 2025年 1月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5名	(回答者数) 5名
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 1月 31日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	■専門性の高い支援体制と職員体制の充実	<ul style="list-style-type: none"> ■PT(理学療法士)、OT(作業療法士)、ST(言語聴覚士)を配置し、専門的な支援を提供 ■個別支援計画には、放課後等デイサービスガイドラインに示す「本人支援」「家族支援」「移行支援」の支援内容から、子どもの支援に必要な項目を適切に設定し、具体的な支援内容を定めている ■個別支援計画に基づいて、子どもの発達状況や課題に応じた専門性の高い支援を提供 ■児童発達支援管理責任者を中心に、保育士、理学療法士、作業療法士がそれぞれの専門性を活かして連携し、個々の子どもの特性に応じた支援方法や工夫を検討 	<ul style="list-style-type: none"> ■アセスメントツールの導入 ■個別支援計画作成における多職種連携の強化 ■保護者参加型の個別支援計画作成
2	■保護者との密な連携、連携の強化	<ul style="list-style-type: none"> ■子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察を含むインフォーマルなアセスメントを使用するなどして確認 ■定期的にもモニタリングを行い、個別支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを実施 ■中間評価や終了時評価で目標や支援内容の見直しを行い、保護者との面談で伝えている 	<ul style="list-style-type: none"> ■家庭での様子を把握するための質問紙の活用 ■家庭での支援に関するアドバイス、具体的な提案 ■モニタリング結果のフィードバック ■家庭での目標設定 ■連絡手段の多様化 ■相談しやすい環境づくり ■保護者会、茶話会等の開催
3	■個別性のある支援の提供	<ul style="list-style-type: none"> ■支援開始前には職員間で必ず打ち合わせを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援 ■支援終了後には、職員間で必ず打ち合わせを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気づいた点等を共有 ■日々の支援に関して記録を取り、支援の検証・改善につなげている ■活動プログラムが固定化しないよう工夫 ■子どもが自己選択できるような支援の工夫 ■子どもの個性や特性に合わせて、時間、空間、手続きの構造化を実践 	<ul style="list-style-type: none"> ■打ち合わせ内容の標準化 ■役割分担の明確化 ■情報共有ツールの活用 ■振り返り内容の明確化 ■プログラム作成への多様な意見の反映、プログラム内容の定期的な見直し ■地域資源の活用 ■構造化に関する研修の実施 ■構造化チェックリストの活用 ■構造化支援ツールの活用

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	■保護者会や茶話会など、保護者同士の交流	<ul style="list-style-type: none"> ■保護者交流の段取りが遅く周知も遅れた ■保護者同士の情報交換の場や茶話会等の計画提出ができていなかった 	<ul style="list-style-type: none"> ■企画をする段階で、開催までのタイムスケジュールや段取りを細かく決め、余裕をもった周知を行う ■保護者の意見を参考にしながら、交流の機会を設ける
2	■地域の子どもの交流	<ul style="list-style-type: none"> ■地域の学校や児童館と交流する場を設定することが難しい 	<ul style="list-style-type: none"> ■他事業所の子どもの同士または、職員同士の交流、情報交換ができるよう交流の機会を検討していく ■地域の学校や児童館など、どのようにすれば利用かつ交流ができるか検討していく
3			

公表

事業所名		公表日 R7年3月28日					
放課後等デイサービス事業所 輝なっせ		保護者等からの事業所評価の集計結果					
	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1 こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	84.6	2.6	0.0	12.8		・法的基準を満たしています。 ・放課後等デイサービスのガイドラインにある、こども一人当たり2.47㎡以上の床面積があります。 ・支援室の構造化をしていますので、クラスによっては、狭く感じてしまいかもしれません。
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	84.6	7.7	0.0	7.7	・PT、OT、STが揃って良い	・専門職を配置し、専門的実施計画書をもとに個別性のある支援を行っています。
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	92.3	0.0	0.0	7.7		・子どもさんの個性や特性に合わせて、“時間、空間、手続き”3つの構造化を取り入れています。 ・段差のないフラットな玄関にしていますので、スムーズな入室ができます。 ・2段階で手すりの設置をしており、体に合わせて使い分けができます。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	92.3	0.0	0.0	7.7		・活動内容に合わせて、仕切りで部屋を区切るまたは撤去するなど工夫をしています。 ・子どもさんが来所されるまでは、部屋の換気を行っています。また、消毒や空気清浄機等を使用し除菌等の徹底も行っていきます。
適切な 支援の 提供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	97.4	2.6	0.0	0.0	・子どものことを考え、寄り添い導いて下さり、感謝しています ・長く利用していますが、その時その時での特性や困りごとを理解していただいています	・児童発達支援管理責任者を中心に、保育士、理学療法士、作業療法士、それぞれの目線から意見を出し、個々の特性等に応じた支援方法や工夫の検討を行っています。
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	94.9	0.0	0.0	5.1		・支援プログラムは、事業所の支援内容に合わせて提供しています。
	7 こどものことを十分に理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	97.4	2.6	0.0	0.0	・親から見ても、子どものことを良く見て下さり、“なるほど”と親が勉強させてもらっています	・児童発達支援管理責任者を中心に、保育士、理学療法士、作業療法士、それぞれの目線から意見を出し、目標や支援内容の設定を行い支援しています。
	8 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	100.0	0.0	0.0	0.0		
	9 放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	100.0	0.0	0.0	0.0		
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	94.9	2.6	0.0	2.6		・児童発達支援管理責任者を中心に、保育士、理学療法士、作業療法士、それぞれの目線から意見を出し、目標や支援内容の設定を行い支援しています。 ・また、中間評価や終了時評価で目標のや支援内容の見直しを行い、ご家族との面談でお伝えしています。
11 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	41.0	23.1	0.0	35.9		・放課後児童クラブや児童館の利用はできませんでしたが、公園や図書館など公共の施設を利用し、地域の子どもと同じ空間で過ごせる機会を設けています。	
12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	100.0	0.0	0.0	0.0			
13 「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	100.0	0.0	0.0	0.0			
14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	76.9	10.3	0.0	12.8		・勉強会や研修会の開催は行っているものの、周知が遅くなってしまっていることが現状です。 ・早めの周知を行い、参加の声掛けを行います。	

保護者への説明等	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていると思いますか。	97.4	0.0	0.0	2.6	<ul style="list-style-type: none"> ・相談しやすいです ・毎日、子どもの様子を口頭や連絡帳で伝えて頂き、安心しています ・連絡帳への記載や送迎時のやり取りで情報共有できています 	<ul style="list-style-type: none"> ・連絡帳（紙面）、対面（送迎や面談）、電話、LINEで家庭や学校、輝なっせでの様子等を共有しています。 ・体調不良等で欠席された際は、後日体調の確認連絡を入れています。
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	94.9	2.6	0.0	2.6	<ul style="list-style-type: none"> ・親も勉強させてもらっています 	<ul style="list-style-type: none"> ・年2回、面談（評価）を実施し、個別支援計画書に基づき評価を行っています。その中で、家庭や学校の様子等も聞き取り、子どもさんやそのご家族が過ごしやすくなるよう、お話しさせて頂いています。
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	100.0	0.0	0.0	0.0		
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	35.9	25.6	0.0	38.5	<ul style="list-style-type: none"> ・きょうだい同士の交流が行われているかは分かりません ・懇親会などがあれば行きたいです ・興味はあるので、機会があると良いなとは思っています 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度初となる地域交流や家族交流を含めた、“運動会”を開催しました。保護者さんやごきょうだい、地域の放課後等デイサービス事業所への参加を募りましたが、運動会のお知らせ配布が遅くなり、輝なっせからの参加ご家族は数組でした。この反省を踏まえ、次年度は早めのご案内を行いたいと考えています。
	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	87.2	5.1	0.0	7.7	<ul style="list-style-type: none"> ・相談事に対してすぐ対処して頂き、本当に助かりました 	<ul style="list-style-type: none"> ・連絡帳（紙面）、対面（送迎や面談）、電話、LINE等で受けた相談等については、すぐに対応ができるよう、職員間で情報共有を行い、子どもさんやご家族に返答しています。 ・相談内容によって、管理者、課長、主任に相談し、検討したうえで返答をしています。
	20	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	92.3	0.0	0.0	7.7		<ul style="list-style-type: none"> ・連絡帳（紙面）、対面（送迎や面談）、電話、LINE等で情報共有を行っています。
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	82.1	10.3	0.0	7.7		<ul style="list-style-type: none"> ・評価表については、法人ホームページに掲載しています。また、ご家族には紙面に配布をしています。
22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	89.7	10.3	0.0	0.0		<ul style="list-style-type: none"> ・個人情報の取り扱いについては、十分に留意しています。 	
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	71.8	10.3	0.0	17.9		<ul style="list-style-type: none"> ・各マニュアルの策定はしていますが、ご家族がすぐに確認できるような掲載方法を取ることができていませんでした。 ・現在、マニュアルの周知方法を検討中です。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	59.0	7.7	0.0	33.3		<ul style="list-style-type: none"> ・年に数回、避難訓練を行い、紙面に様子等をお知らせしています。
	25	事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	87.2	2.6	0.0	10.3		<ul style="list-style-type: none"> ・子どもさんの安全を確保するために、同意書にて説明を行い、支援しています。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	87.2	2.6	0.0	10.3	<ul style="list-style-type: none"> ・事故や怪我等の経験はありません ・連絡や説明は行き届いていると思います 	<ul style="list-style-type: none"> ・輝なっせをご利用中の怪我等については、職員間で連携し電話や送迎時に状況や怪我等の状態を説明しています。 ・また、後日怪我や子どもさんの様子確認の連絡を入れています。
満足度	27	こどもは安心感をもって通所していますか。	100.0	0.0	0.0	0.0	<ul style="list-style-type: none"> ・先生方のことを信頼しています 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもさんが安心して輝なっせに通い、ご家族が安心して子どもさんを見守ってもらえるよう、日々コミュニケーションを取っています。 ・年齢や成長段階、特性毎に不安や悩み等も出てくると思いますので、いつでもご相談下さい。
	28	こどもは通所を楽しみにしていますか。	97.4	2.6	0.0	0.0	<ul style="list-style-type: none"> ・とても楽しみにしています 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもさんが楽しめる活動や企画を考え、提供しています。 ・また、“できた！”“またやりたい！”など自己発揮できるよう、子どもさんそれぞれがやりたいことにも寄り添います。
	29	事業所の支援に満足していますか。	94.9	0.0	0.0	5.1	<ul style="list-style-type: none"> ・とても満足しています 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもさんの【できること→より具体的に】【難しいこと→子どもさんに合った適切な方法で援助】【できそうなこと→療育の中に取り入れ、できることに繋げる】ことを意識し、個性のある支援提供を行っています。 ・今後子どもさんやご家族に寄り添い、過ごしやすい環境作りのサポートをしていきます。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日			
放課後等デイサービス事業所 輝なっせ		R7年 3月28日			
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	100	0	・法的基準を満たしている ・ガイドラインにある1人あたり2.73㎡以上ある ・活動に合わせてグループ分けや部屋を分けて対応している	・中高生のクラスは、身体も大きくなっているため、活動スペースが狭く感じてしまう ・周囲の声や物音が気になる子どもさんにとっては、過ごしにくい環境になっているかもしれない
	2 利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	100	0	・PT、OTを配置し、より専門的な支援の提供ができるようにしている	・直接支援に関わる常勤2名、非常勤2名の計4名では、クラスによって丁寧な支援が難しい場合もある
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	100	0	・子ども達の身長に合わせて、手すりを低い位置と高い位置に設定している ・自立課題やクールダウン、休憩等ができるよう構造化している	・身障者トイレのペーパーホルダーが使いにくい位置にあるため、改善が必要
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか。	100	0	・子ども達が来所されてから“今、するべきこと”に取り組みやすいよう、仕切りを使用した導線作りとエリア分けを行っている ・毎日、療育終了後に清掃や活動に合った環境設定を行っている	・休憩スペースや着替えスペースを自立課題エリアと共有しているため、カーテンや仕切りでもっと明確なエリア分けが必要かもしれない
	5 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	100	0	・4つの個室を作っており、“一人で過ごしたい”“休憩したい”子どもが使用できるようにしている	・“休憩したい”“静かな空間で過ごしたい”という子どもさんにとっては、過ごしにくい環境かもしれない
業務改善	6 業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	100	0	・PDCAサイクルを基準に、打ち合わせや振り返り、ミーティングを行い情報の共有や支援統一を図っている	・長期休暇や祝祭日は、打ち合わせや振り返りが丁寧にできておらず、今後の課題である
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	100	0	・年に1度、保護者へ事業所評価表を配布し、頂いた意見を次年度の療育や環境等の改善に繋げている	
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	100	0	・評価表を集計し、改善が必要なことに関しては職員間で話し合いながら改善している	
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	100	0	・平成29年～平成30年にかけて第三者評価を実施し、指導を行ってもらっているが、令和3年度までの期限であった	・今後、第三者評価の実施を検討している
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	100	0	・【ペアレントトレーニング、虐待防止、就労支援】など、集合型の研修に多く参加している	
	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	100	0	・現在は、パンフレットや法人ホームページにて事業所の概要等を掲載している	・今後、支援プログラムを作成し公表予定
	12 個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	100	0	・保護者の方に子どもさんのアセスメントシートを記入してもらい、アセスメントシートを基に個別支援計画書の作成を行っている ・子どもさんが通う学校や他事業所の様子を聞き取りながら、適宜目標等の見直しを行っている	・放課後等デイサービスの利用開始時にアセスメントシートの記入をお願いしているため、記載内容が変わっている部分もある ・今後、どのタイミングでアセスメントを行っていくか検討中
	13 放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	100	0	・児童発達支援管理責任者を中心に目標や支援内容の検討を行っている ・保育士、理学療法士、作業療法士それぞれの目線で意見を出してもらい、個性のある支援を提供している	
	14 放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	100	0	・児童発達支援管理責任者を中心に目標や支援内容の検討を行っている ・打ち合わせや振り返りで目標や支援内容の共有を行っている	・放課後等デイサービス以外の職員でも支援に入った際、共通した対応ができるよう、どのような方法で共有していくかの検討が必要
	15 こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	100	0	・行動に対する「課題、直前の状況（状態）、直後の支援者の対応、子どもの反応（結果事象）」を分析シートを用いて確認している	
	16 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	100	0	・放課後等デイサービスガイドラインにある、「本人支援・5領域」「家族支援」「移行支援」「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容、アセスメント等を踏まえ、個々にあった目標や支援内容の設定を行っている	

適切な支援の提供	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	100	0	・クラス担当（支援者）を決め、担当を中心に活動内容や活動をする中での個々の目標、工夫する点等を職員間で考えている ・また、個々の特性やニーズに応じた内容の設定を行っている	・活動は1ヶ月前に決定しているが、中身については直前に立案しているため、準備不足な場合もある ・活動プログラムについて早めに立案していくことが今後の課題である
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	100	0	・クラス担当（支援者）を決め、担当を中心に活動内容や活動をする中での個々の目標、工夫する点等を職員間で考えている ・活動が同じでも、ルールや支援方法、使用する道具等を前回の振り返りをもとに変更し、楽しみめる工夫をしている	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	100	0	・子どもの状況に応じて、個別活動・集団活動を組み合わせ個別支援計画書を作成している 個別支援計画書をもとにその日の目標設定し支援をしている	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	100	0	・振り返りや打ち合わせの時間を設け、“活動内容、個々の目標”を職員間で共有している	・長期休暇や祝祭日は、打ち合わせが丁寧できておらず、今後の課題である
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	100	0	・支援終了後には、十分な時間の確保ができない為、次の日職員が全員そろった時間に振り返りを行っている	・長期休暇や祝祭日は、振り返りが丁寧できておらず、今後の課題である
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	100	0	・毎日支援に対しての記録を取り“どのようにすると上手くいくのか”等話し合い工夫をしている	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	100	0	・半年に1回保護者とモニタリングを行い、目標の見直しを行っている ・何が出来るようになってほしいか等聞き直しを行っている	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせさせて支援を行っているか。	100	0	・「4つの基本活動」を中心に、子どもさんが成功体験を重ね、自己肯定感を構築できるような時間や場面の設定を行い支援しています	
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定する力を育てるための支援を行っているか。	100	0	・自由時間に子どもさんがやりたい遊びたいの選択が出来るよう、準備できる遊びの一覧表（トランプ、UNO）等の写真を提示している	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	100	0	・会議前には、児童発達管理責任者を中心に子どもさんの状況確認や各関係機関と共有しておきたい情報の確認を行い参画している	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	100	0	・「地域支援・地域連携」ができるよう、各関係機関と情報の共有を行っている	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	100	0	・時間割等学校からファックスしてもらう等している。また、下校時間がわからない際は学校に連絡し確認を行っている ・支援学校については、連絡調整会議が開催されるので、その際に情報共有等を行っている	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	100	0	・児童発達支援事業所から、保育所や幼稚園、認定こども園等での様子の情報提供をしてもらい、放課後の職員間で共有をしている	・情報の聞き取りがメインになっているため、次年度は児童発達支援の療育に入り、子どもさんの様子や行動、関わり方を実際に見て放課後の支援へ活かしていく
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	100	0	・子どもの“出来る事・難しい事・言葉かけ、今まで取り組んできたこと”等、資料を作成し情報提供を行っている ・必要に応じて卒業後に利用される事業所の方と対面での引継ぎを行っている	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	100	0	・他機関と協力し、自己研鑽に努めている ・専門職と契約しており年に4回程指導を受けている	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	100	0	・他事業所と合同で運動会を開催している ・児童クラブや児童館の利用はできていないが、地域の図書館やプールなどを利用し、交流を図っている	・1回目の開催であった為、企画立案や時間等を含め改善すべき点があった。今後は、1回目の反省を活かし、早めに企画立案を行う ・児童クラブや児童館の利用については検討中
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	100	0	・管理者等が参加し情報提供を行っている	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	100	0	・帰りの送迎、保護者が迎えに来た際、子どもの課題や様子を伝え、家庭での様子も聞き取り情報提供を行っている	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	100	0	・研修の情報提供をしている ・ご家族の話聞き、状況に合った助言等を行っている	
36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	100	0	・半年に1回ある評価の際“運営規程、支援プログラム、利用者負担”等の説明を行っている。	・報酬改定後、利用者負担額の説明は別表にて説明を行っているが、細かい説明ができていないので、どのような方法で保護者に説明等を行うか検討する	

保護者への説明等	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点も踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	100	0	・保護者に意向の確認を行ったうえでサービス計画を作成している。また、こども本人とも目標確認する機会を設けている。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	100	0	・半年ごとに放課後等デイサービス計画を作成後、保護者と対面のうえで内容の説明を行い同意を得ている。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	100	0	・ご家族からの相談に応じ対面等で“家族支援”を行っている。また、必要に応じて学校等も含めた支援会議に参加している。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	100	0	・保護者会は開催していないが、バザーを開催する等保護者同士が顔を合わせるような機会を設けている。	・子どもも交えての交流となっている為、保護者だけの交流の機会を作っていきたい。 ・保護者会や茶話会など検討中
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	100	0	・苦情解決委員会を設置し、決められた担当者が対応する環境を設けている。 ・内容によっては、管理者、課長、主任に内容を伝え助言をもらっている。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	100	0	・活動の概要や行事予定については毎月お便りを作成し周知している。 ・定期的にSNSを活用して活動状況を発信している。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	100	0	・個人情報の持ち出しは禁止しており、契約時に保護者への説明を行っている。 ・担当者会議等で事業所外にパソコン等の持ち出しを行う際には、管理者の許可の元持ち出しを行っている。	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	100	0	・月ごとのおたより、LINE、Facebookなどを利用し、情報伝達を行っている。 ・利用児に対しては、個々に合った方法で視覚提示等を行い、確認ができるようにしている。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	100	0	・地域の事業所を招待して運動会を開催した。	
	非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	100	0	・各マニュアルを策定し、保護者説明会や文書を通して周知している ・事故、緊急時、防犯などそれぞれに合わせた訓練を実施している。
47		業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	100	0	・法人でBCP（事業継続計画）の作成を行い周知している。 ・事業所内の防災担当職員により、11月、3月に地震及び火災の避難訓練を実施。	
48		事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	100	0	・アセスメントシートを用いて事前に服薬状況等の確認をしている。 ・服薬量等が変わる際にはその都度保護者に情報提供して頂けるようお願いしている。	
49		食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	100	0	・食事提供は行っていないがおやつ時間を設けているため、アセスメントシートや直接面談等でアレルギー確認を行い、アレルギー食品を摂取しないよう努めている。 ・調理体験を行う際は、事前に使用する食品をアレルギーを持っている子どものご家族に伝え、使用や摂取が可能か確認を取っている。	・おやつを保管している冷蔵庫に、どの子にどのアレルギーがあるか分かりやすいようリストを掲示する、などし誤って摂取してしまう事がないようにしていく。
50		安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	100	0	・事業所での安全計画を作成している。 ・KYTの研修などを適宜行っている。	
51		こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	100	0	・避難訓練等の様子についてお便りを作成し、保護者への周知を行っている。	
52		ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	100	0	・“①管理者、支援課長へ報告 ②記録を作成する ③朝礼、ミーティング、回覧で周知”という順序で共有している・共有の順序に関しては、状況に合わせて管理者、支援課長の指示に合わせている。	
53		虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	100	0	・法人内研修委員会主催で虐待防止に向けた研修があり、全員参加している。	
54		どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	100	0	・評価時に保護者への説明を行い身体拘束に関しての同意を得ている。 ・また、放課後等デイサービス計画にも記載している。	

事業所名 放課後等デイサービス 輝なっせ

支援プログラム (参考様式)

作成日

令和7年

3月

1日

法人(事業所)理念	法人理念 感・共・和			
支援方針	家族とこどものウェルビーイングの実現を、共に!!!			
営業時間	9時	30分	18時	
		30分	まで	
			送迎実施の有無	
			迎・あり 送・あり	
TEACCHプログラム	環境のなかでさまざまな相互作用により、こどもは成長や発達をする。こどもの状態を矯正していくのではなく、環境にアプローチを行い一人ひとりの持っている優れた能力を発揮できるように支援する事を目標とする。また、保護者や関係者と連携を図りながら移行支援も含めたライフステージに合わせた育ちを支える。TEACCHプログラムという支援の考え方の枠組みを活用しながら、プレイセラピー、ワークシステム、SST、感覚統合遊び、ビジョントレーニング、シェイピング、応用行動分析、PECSなど様々な手法を用いてエンバウメント力を育てる。			
支援内容				
本人支援	健康・生活	<p>【健康状態の把握】</p> <p>ご利用中に決められた時間で、健康観察を行い心身の状態をきめ細やかに把握を行う。また、保護者や先生など引継ぎの際の連絡事項を、職員と共有する。また、自らの身体状況の変化を伝えられ健康で安全に参加できるように支援を行う。</p> <p>【生活リズムの形成・健康の促進】</p> <p>睡眠、食事、運動状況の把握を行い、状態に合わせた活動中におやつ、粗大遊び、微細運動遊び、適宜休息する時間を取り入れ、基本となる生活リズムの調整、体力づくりを行う。苦手な感覚、衣服の調整、室温の管理など快適な生活に向けて合理的な配慮を行う。</p> <p>【基本的な生活スキルの獲得・マネジメント】</p> <p>先の見通しが持てる生活を目指し、物理的、視覚的な構造化を活用しながら、視覚的なスケジュールを使用し自分分かりやすい方法で安心して生活が送れるように支援する。最初はマネジメント行いながら、後に自分自身で組み立てることができる行動を増やし、自制心を育みエンバウメント力が向上できるようにステップを踏んだ支援を行う。</p> <p>【アタッチメント】</p> <p>こどもの困り感に、適切に寄り添い助けることで、愛着形成、情緒の安定を図ります。</p>	<p>【健康状態の把握】</p> <p>ご利用中に決められた時間で、健康観察を行い心身の状態をきめ細やかに把握を行う。また、保護者や先生など引継ぎの際の連絡事項を、職員と共有する。また、自らの身体状況の変化を伝えられ健康で安全に参加できるように支援を行う。</p> <p>【生活リズムの形成・健康の促進】</p> <p>睡眠、食事、運動状況の把握を行い、状態に合わせた活動中におやつ、粗大遊び、微細運動遊び、適宜休息する時間を取り入れ、基本となる生活リズムの調整、体力づくりを行う。苦手な感覚、衣服の調整、室温の管理など快適な生活に向けて合理的な配慮を行う。</p> <p>【基本的な生活スキルの獲得・マネジメント】</p> <p>先の見通しが持てる生活を目指し、物理的、視覚的な構造化を活用しながら、視覚的なスケジュールを使用し自分分かりやすい方法で安心して生活が送れるように支援する。最初はマネジメント行いながら、後に自分自身で組み立てることができる行動を増やし、自制心を育みエンバウメント力が向上できるようにステップを踏んだ支援を行う。</p> <p>【アタッチメント】</p> <p>こどもの困り感に、適切に寄り添い助けることで、愛着形成、情緒の安定を図ります。</p>	
	運動・感覚	<p>【姿勢と運動。動作の基本的技能の向上】</p> <p>食事、排泄、着脱等基本的な動作獲得に向けて、発達段階にあわせた基礎となる運動遊びや、手指課題を通して、姿勢保持や運動、周辺動作の習得、筋力強化、下肢、上肢の安定を強化を図る。活動取り組みにあたり、課題趣向型と機能趣向型、シェイピング、逆行連鎖等を両立させ、こどもさんが興味づけしやすく、意欲的に取り組みやすい手法を用いる。</p> <p>【身体保持・運動の補助的手段活用】</p> <p>身体状況に合わせて、個々にあった椅子の高さ、机の高さを調整、又はバスタオルやクッション、牛乳箱などご家庭で手に入る物を活用し、身体保持の補助用具として活用し、身体保持の安定を図る。</p> <p>【保有する感覚の活用/補助と代行手段、感覚特性への対応】</p> <p>感覚遊びや感覚統合遊びなど、遊びや体験を通して感覚の活用と補填、調整や統合を行う事で領域のさまざまな部分に影響される課題の解決を図ります。また、苦手な感覚には、補助道具の活用、空調の調整、明暗、においなど合理的に配慮する。</p>	<p>【姿勢と運動。動作の基本的技能の向上】</p> <p>食事、排泄、着脱等基本的な動作獲得に向けて、発達段階にあわせた基礎となる運動遊びや、手指課題を通して、姿勢保持や運動、周辺動作の習得、筋力強化、下肢、上肢の安定を強化を図る。活動取り組みにあたり、課題趣向型と機能趣向型、シェイピング、逆行連鎖等を両立させ、こどもさんが興味づけしやすく、意欲的に取り組みやすい手法を用いる。</p> <p>【身体保持・運動の補助的手段活用】</p> <p>身体状況に合わせて、個々にあった椅子の高さ、机の高さを調整、又はバスタオルやクッション、牛乳箱などご家庭で手に入る物を活用し、身体保持の補助用具として活用し、身体保持の安定を図る。</p> <p>【保有する感覚の活用/補助と代行手段、感覚特性への対応】</p> <p>感覚遊びや感覚統合遊びなど、遊びや体験を通して感覚の活用と補填、調整や統合を行う事で領域のさまざまな部分に影響される課題の解決を図ります。また、苦手な感覚には、補助道具の活用、空調の調整、明暗、においなど合理的に配慮する。</p>	
	認知・行動	<p>【認知の特性についての理解と対応】</p> <p>個々の障がい特性、学習のスタイルに応じ、周囲から捉える感覚が適切に処理できるように、視覚的な支援や聴覚的な支援、個々の記憶や思考、情報処理能力に配慮した関わりを行い、環境から情報を収集しやすいよう、実物、絵、写真、イラスト、文字、道具などを活用し認知の発達を促す支援を行う。ビジョントレーニングを通して、眼球運動、視空間認知、両目のチームワークを機能向上を図り、外からの状況を受け取り、身体を使い、空間の中に操作したり表現できるように支援する。</p> <p>【知覚から情報を適切に認知し適切な行動への認知過程】</p> <p>個別、集団療育の中で、その環境から適切な情報に注目し、情報を適切に収集しやすいように物理的な環境の調整、視覚的なスケジュール、ワークシステム、絵カード、視覚的な教材を用いて「可視化」するなど、必要な情報を自ら取捨選択して「自発的な表現」に繋げられる様に認知過程の発達を支援する。</p> <p>【認知や行動の手掛かりとなる概念の形成】</p> <p>数の概念、色、物、道具の認知、比較を表す形容詞(大/小、近い/遠いなど)などは、興味関心のあるパズルや絵本、ボックス課題や実体験ができる活動を取り入れ、経験を重ねる支援を行う。</p> <p>【行動障がいへの予防及び対応】</p> <p>フォーマルなアセスメントやインフォーマルなアセスメントから認知の特性を踏まえ、こどもが容易に理解できる教材・教具を活用し、自分にとっての情報をゆっくり適切に処理し、安心して安全に行動へ移行できるように支援する。また、こどもをその環境へ適用させるのではなく、周囲の環境(物、人)の状況や関わりに注目するなど特性に対して環境に配慮する。</p> <p>【優先し声で、ゆっくり、笑顔で、こどもが情報を受け取る準備がしやすく準備を行ったところで明確で簡潔に教示することが基本。言動自体を否定するのではなく、良い行動を促す支援を行う。</p>	<p>【認知の特性についての理解と対応】</p> <p>個々の障がい特性、学習のスタイルに応じ、周囲から捉える感覚が適切に処理できるように、視覚的な支援や聴覚的な支援、個々の記憶や思考、情報処理能力に配慮した関わりを行い、環境から情報を収集しやすいよう、実物、絵、写真、イラスト、文字、道具などを活用し認知の発達を促す支援を行う。ビジョントレーニングを通して、眼球運動、視空間認知、両目のチームワークを機能向上を図り、外からの状況を受け取り、身体を使い、空間の中に操作したり表現できるように支援する。</p> <p>【知覚から情報を適切に認知し適切な行動への認知過程】</p> <p>個別、集団療育の中で、その環境から適切な情報に注目し、情報を適切に収集しやすいように物理的な環境の調整、視覚的なスケジュール、ワークシステム、絵カード、視覚的な教材を用いて「可視化」するなど、必要な情報を自ら取捨選択して「自発的な表現」に繋げられる様に認知過程の発達を支援する。</p> <p>【認知や行動の手掛かりとなる概念の形成】</p> <p>数の概念、色、物、道具の認知、比較を表す形容詞(大/小、近い/遠いなど)などは、興味関心のあるパズルや絵本、ボックス課題や実体験ができる活動を取り入れ、経験を重ねる支援を行う。</p> <p>【行動障がいへの予防及び対応】</p> <p>フォーマルなアセスメントやインフォーマルなアセスメントから認知の特性を踏まえ、こどもが容易に理解できる教材・教具を活用し、自分にとっての情報をゆっくり適切に処理し、安心して安全に行動へ移行できるように支援する。また、こどもをその環境へ適用させるのではなく、周囲の環境(物、人)の状況や関わりに注目するなど特性に対して環境に配慮する。</p> <p>【優先し声で、ゆっくり、笑顔で、こどもが情報を受け取る準備がしやすく準備を行ったところで明確で簡潔に教示することが基本。言動自体を否定するのではなく、良い行動を促す支援を行う。</p>	
	言語コミュニケーション	<p>【コミュニケーションの基礎的能力の向上・言語の受容と表出】</p> <p>発達段階や特性に合わせた実物やイラスト、写真、絵カード、ジェスチャー、手振り手振りなど、言語、非言語のコミュニケーション方法、また、文書を組み立てられる教材を活用し、あつまりや活動の中で、発表する機会を作り、具体的な体験や言葉の構成、言葉の意味をつづけるなどにより、体系的な言語の習得、自発的な発言を促す支援を行う。</p> <p>また、遊びの時間を大切に遊びを通して自分の気持ちや表現したり、考えを伝えたり人の意見を聞き入れて相手の意図を理解するなど、人との相互作用によるコミュニケーション能力の獲得を目指す。</p> <p>【パクスを活用し、コミュニケーションの方法を学び、相手とコミュニケーションをする事の楽しさを知ってもらいます。また、適切なコミュニケーションの方法を知る事で、不適切な行動を減らし、家族や支援者に気持ちや意図を適切に伝えられることで、愛着の形成を容易にします。</p> <p>【人との相互作用によるコミュニケーション能力の獲得】</p> <p>こどもが見ている世界に注目し、こどもの視線と支援者の視線を合わせる所から共同注意する体験を繰り返して、相手と同じものを見ている</p> <p>相手を受け入れてもらった嬉しさを体感し、コミュニケーションの楽しさを実感させる。</p>	<p>【コミュニケーションの基礎的能力の向上・言語の受容と表出】</p> <p>発達段階や特性に合わせた実物やイラスト、写真、絵カード、ジェスチャー、手振り手振りなど、言語、非言語のコミュニケーション方法、また、文書を組み立てられる教材を活用し、あつまりや活動の中で、発表する機会を作り、具体的な体験や言葉の構成、言葉の意味をつづけるなどにより、体系的な言語の習得、自発的な発言を促す支援を行う。</p> <p>また、遊びの時間を大切に遊びを通して自分の気持ちや表現したり、考えを伝えたり人の意見を聞き入れて相手の意図を理解するなど、人との相互作用によるコミュニケーション能力の獲得を目指す。</p> <p>【パクスを活用し、コミュニケーションの方法を学び、相手とコミュニケーションをする事の楽しさを知ってもらいます。また、適切なコミュニケーションの方法を知る事で、不適切な行動を減らし、家族や支援者に気持ちや意図を適切に伝えられることで、愛着の形成を容易にします。</p> <p>【人との相互作用によるコミュニケーション能力の獲得】</p> <p>こどもが見ている世界に注目し、こどもの視線と支援者の視線を合わせる所から共同注意する体験を繰り返して、相手と同じものを見ている</p> <p>相手を受け入れてもらった嬉しさを体感し、コミュニケーションの楽しさを実感させる。</p>	
	人間関係社会性	<p>【アタッチメント(愛着)の形成と安定】</p> <p>こどもを否定しない。こどもの行動を認め、環境を調整し工夫する。自発的に話す、聞く、触る、求めるなどのコミュニケーションを通して、人との関わりが安心できる関係を築き、その信頼関係を基盤として、情緒の安定を図る。情緒が安定する中で、興味関心のある物を活用しながら周囲と関わり、人間関係を形成する為の支援を行う。</p> <p>【遊びを通じた社会性の発達】</p> <p>遊びを通して、折り合いや我慢、交換、交代、順番など相手と関わる上で必要なスキルの獲得に向けてモジュールステップを行う。大人との遊びで体験し、経験したことを、こども同士の遊びに般化させると同時にモジュールステップで仲間づくりと集団への参加に結びつける。</p> <p>【自己理解と行動の調整】</p> <p>発達段階や個々の特性を理解し、合理的な配慮を行い、自分が得意なことや苦手なことを理解し苦手なことは工夫でカバーし、気持ちや感情の調整ができるように、苦手な事への工夫や対処の仕方を一緒に考え物に出来るように支援する。</p>	<p>【アタッチメント(愛着)の形成と安定】</p> <p>こどもを否定しない。こどもの行動を認め、環境を調整し工夫する。自発的に話す、聞く、触る、求めるなどのコミュニケーションを通して、人との関わりが安心できる関係を築き、その信頼関係を基盤として、情緒の安定を図る。情緒が安定する中で、興味関心のある物を活用しながら周囲と関わり、人間関係を形成する為の支援を行う。</p> <p>【遊びを通じた社会性の発達】</p> <p>遊びを通して、折り合いや我慢、交換、交代、順番など相手と関わる上で必要なスキルの獲得に向けてモジュールステップを行う。大人との遊びで体験し、経験したことを、こども同士の遊びに般化させると同時にモジュールステップで仲間づくりと集団への参加に結びつける。</p> <p>【自己理解と行動の調整】</p> <p>発達段階や個々の特性を理解し、合理的な配慮を行い、自分が得意なことや苦手なことを理解し苦手なことは工夫でカバーし、気持ちや感情の調整ができるように、苦手な事への工夫や対処の仕方を一緒に考え物に出来るように支援する。</p>	
	家族支援	<p>親子療育 □相談 □面談 □学習会 □兄妹支援</p> <p>上記を通して、子育てや関係機関との悩み相談、助言、関わり方を学ぶ学習会や、就学、進学、就職等へ情報提供などのサポートを行う。</p>	移行支援	<p>地域移行に向けた、関係機関への情報提供を行う事で円滑に移行できるようにサポートを行う。また就学、進学、就職等に向けたトレーニング・実習・見学など丁寧なサポートを行い、円滑な地域移行に繋げる。</p>
	地域支援・地域連携	<p>必要に応じて、市町、教育、かかりつけ医、他の療育先、相談支援事業所、自立支援協議会等と連携を図り、情報を共有することにより、こどもの理解を一層深め、円滑に繋がっていくように連携を図る。</p>	職員の質の向上	<p>QJ1、OFF、JT</p>
主な行事等	<p>親子参加型の企画 □避難訓練年2回 □防犯訓練1回 □衛生管理・事故防止訓練 年2回 □虐待防止・身体拘束研修 □安全計画策定見直し □</p> <p>子どもだけの企画 □兄弟児を含めた企画 □保護者会など</p>			